



知っていますか？

地域で支え合いの話し合い

高齢化率が21%を超えると超高齢社会と言われますが、蒲郡市でこれを超えたのは今から10年以上前の平成17年です。昨年10月には、29%を超えてしまいました。今後、ますます地域の高齢者割合が増えていく中、10年後、20年後の皆さんの地域がどのようなようになっていくか想像してみてください。住み慣れた地域で暮らし続けるために、お互い様の地域づくりがその助けになるのではないのでしょうか。

今年度から皆さんお住まいの地域で「支え合いの話し合い」が始まっています。話し合いのテーマはいろいろ。地域で、どこにどんな集まりや活動があるか地図に落とししてみよう

- ・〇〇地区では高齢者が集まって週に1回買物に行っている
- ・〇〇地区で高齢者が集まる教室

を作りたいがどうしたらよいかなど、それぞれの地域で支え合いに関する話し合いが行われています。

この話し合いの場は、居場所づくりや助け合い活動自体を担うわけではありません。担っていけないということはありませんが、目指すイメージは茶話会です。例えば、皆さんも喫茶店で会議をすることはありませんよね。司会や必ずこれを決めないと終われないなんてこともありません。まずは自由に自分の地域の支え合いに関する情報交換から始めています。

取り組み始めとして、自治会の役員や民生委員、老人クラブの方々に呼びかけた有志が集まってもらっています。今後、そこからいろんな立場の方が参加して、地域全体に輪が広がればと思います。興味のある方は、長寿課または社会福祉協議会生活支援コーデイネーター（☎69♦3911）にお問い合わせください。



アナタの知らない月世界

「地球の出」と名付けられた写真をご存知でしょうか？アポロ8号に搭乗した宇宙飛行士が撮影したもので、月の地平線の向こうの暗い宇宙に、小さな青い地球が浮かんでいる写真です。アメリカの有名な雑誌「ライフ」の2011年の特集「世界を変えた100枚の写真」にも選ばれた、有名な一枚です。

持ち帰った石、飛んで来た石

規則正しく満ち欠けし、東から西へ夜空を通り過ぎていく月を見上げながら、人類は神話を作り、暦をささみ、別世界を想像してきました。しかし実際に月面を踏み、月世界をその目で見る事ができたのは、たった50年前のこと。アメリカ合衆国によるアポロ計画で、人類は300キロを超える石や砂を地球に持ち帰ることに成功しましたが、その研究は今も進行中で、月は未だに謎に満ちた隣人です。

生命の海科学館で開催中の企画展「アナタの知らない月世界」では貴重な「月隕石」を展示公開しています。これもアポロが持ち帰った月の石の研究成果の一つと言えるでしょう。月隕石とは、隕石としてははるばる地球に飛んで来

た月の石のことで、月から持ち帰った石の研究により新たに発見されたものです。月の裏側から来たものもあると推測されていて、近年注目されています。

2030年頃に日本初の有人月面着陸を実現するとの構想を、昨年8月にJAXA（日本航空宇宙研究開発機構）が発表しました。50年前は写真でしたが、10年後であればきっと月面での光景が、そしてそこから見た地球の姿が、高解像度のVRで届くことではないでしょうか！その日が来ることを待ちながら、今はスポットライトの下で輝く月のかげらをお楽しみください。



アポロ8号に登場した宇宙飛行士が月軌道上から撮影した「地球の出」

館長 山中敦子
生命の海科学館
☎ 66♦1717